中心経営体の農地を団地化して低コスト化を目指したプラン

（滋賀県彦根市新海町（しんがいちょう）地区（H25.2作成））

≪概要・データ≫

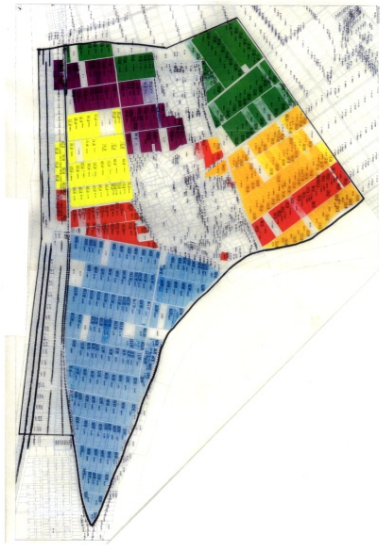
地域の特徴	彦根市南西部の東近江市との境、愛知川の右岸河口に接し、琵琶湖に面する平坦な水田地帯。 主に水稲、麦、大豆を栽培。 地区内農家数　13戸、地区内農地面積　93.4ha
中心経営体	個別経営体　8名
農地集積	現状(H24)　83.9ha(集積率　90%) →目標(H28)　83.9ha(集積率　90%)

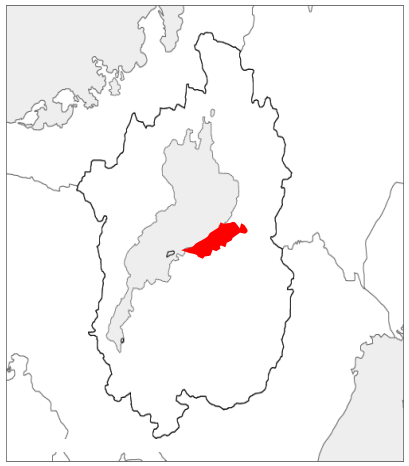
≪主な取組≫

・プラン作成前から、集落内の大部分の農地が土地利用型農業を経営する6経営体に集積されており、これらの経営体を中心経営体に位置付け、プランを作成。
・経営体育成基盤整備事業を活用し、ほ場を経営体ごとに団地化、地主の了解を得ながら畦畔の除去を実施し作業の効率化による低コスト化を目指す。
・プランに中心経営体を明記することで、土地持ち非農家を含む地域全体で担い手を明確にすることができた。
・園芸作物で、市外から新規就農を希望する青年が2名いたため、小区画の畑地（約30筆）の地権者に働きかけ、利用権設定を支援し、経営開始を実現した。後に、集落内で協議が行われ、この新規就農者2名を中心経営体に追加。

≪プラン作成の経緯≫

・平成24年3月に市内の集落代表者に説明を実施するとともに、アンケートを実施。
・平成24年6月に新海地区役員との打合せを実施。
・平成24年7月に新海地区農家説明会を実施。
・平成25年2月に検討会を開催しプランを決定。
・平成25年11月にプランの変更届の提出。
・平成25年12月にプランの更新。



経営体別に、ほ場を団地化した状況を、色分けした地図 【既に実現】

（彦根市位置図）